

もりぐちぶらり歩きマップ

このガイドマップは、市民の皆さんが守口の歴史や文化に親しみ、愛着をもっていただきたいと考え、作成しました。守口市は昭和 21 年に守口町と三郷町が合併し、その後、昭和 32 年に旧庭窪町と合併し、現在の形となりました。

市内に点在する史跡や文化財、施設は、古代から現在まで守口市がどのような歴史をたどっていったのかを学ぶことができます。このマップには、市民の皆さんが気軽に歩いて、見ていただけるよういくつかのコースを設けました。これらを参考に守口市の歴史や文化財を身近に感じてみてはいかがでしょうか。

〈パートⅥ 八雲周辺の史跡散策コース〉

A コース (淀川沿いを歩くコース) (約 4.5 km)

大阪市営地下鉄谷町線「大日駅」⇒ 15分 ⇒京街道(淀川堤防上)⇒ 10分 ⇒八坂瓊神社⇒ 8分 ⇒正迎寺⇒ 8分 ⇒光明寺⇒ 1分 ⇒八雲神社⇒ 6分 ⇒下島公園「花図かん」⇒ 3分 ⇒淀川堤防上⇒ 11分 ⇒御立野碑・五箇樋跡⇒ 8分 ⇒大阪市営地下鉄谷町線「守口駅」

B コース (京街道を歩くコース) (約 4.1 km)

大阪市営地下鉄谷町線「大日駅」⇒ 15分 ⇒京街道(淀川堤防上)⇒ 10分 ⇒八坂瓊神社⇒ 8分 ⇒正迎寺⇒ 京街道沿い 17分 ⇒一里塚跡(パートⅠ参照)⇒ 3分 ⇒瓶橋の跡(パートⅠ参照)⇒ 3分 ⇒盛泉寺(パートⅠ参照)⇒ 3分 ⇒大塩平八郎ゆかりの書院跡(パートⅠ参照)⇒ 1分 ⇒守口宿本陣跡(パートⅠ参照)⇒ 1分 ⇒難宗寺(パートⅠ参照)⇒ 2分 ⇒文禄堤(パートⅠ参照)⇒ 7分 ⇒京阪電鉄「守口市駅」

C コース (ゆっくり 1 日コース) (約 5 km)

大阪市営地下鉄谷町線「大日駅」⇒ 11分 ⇒正覚寺⇒ 2分 ⇒八坂瓊神社⇒ 8分 ⇒正迎寺⇒ 8分 ⇒光明寺⇒ 1分 ⇒八雲神社⇒ 6分 ⇒花図かん⇒ 6分 ⇒専教寺⇒ 12分 ⇒御立野碑・五箇樋跡⇒ 8分 ⇒大阪市営地下鉄谷町線「守口駅」

(※時間・距離はおおよその目安です。なお、見学の時間は含んでおりません。)

《コース内の施設のご案内》

① 下島公園『花図かん』(緑・花協会)

下島公園内にある「花図かん」は、「緑・花」に関する図書やビデオを常備するほか、緑と花の相談、講習会の開催などを行う情報スペースです。

地域で緑・花に関する活動をされている人が、花を育てたくても苗を育てる場所等がないといったときに、苗づくりが出来るよう温室も設置されています(温室の利用についてはお問い合わせが必要です)。

開館時間は午前 9 時～午後 5 時(土・日・祝は午前 9 時～午後 3 時 45 分)、休館日は年末年始です。詳しくは、花図かん(電話・FAX 06-6994-0087)までお問い合わせ下さい。



② 八坂瓊神社

主祭神は素戔鳴尊で、京都祇園の八坂神社から勧請したと伝えられ、旧大庭七番村の氏神として祀られています。社殿は慶長年間、大坂の陣で兵火のため炎上し、元和9年（1623）に再建されたと言われ、現在の社殿は明治11年（1878）に造営されました。



③ 正覚寺



もとは大念仏宗来迎寺の末寺でしたが、明治5年（1872）に浄土宗となりました。古くは大伽藍があったと伝えられ、延宝年間（1673～1681）に浄土宗の僧が住み、享和元年（1716）に最譽円察が再建中興したとされます。境内には、室町時代の石造地藏菩薩板碑十三仏で、慶長15年（1610）の銘があります。

④ 正迎寺

浄土真宗で、創建は那須又五郎為成が観応元年（1350）当時、小高瀬庄大枝に滞在していた存覚上人に帰依して善正と称し、当寺を開いたと伝えられています。当寺には、伝存覚上人筆の十字名号「帰命盡十方無碍光如来」が伝存されており、紙本に筆勢鋭く大書され、紙はやや黒ずみ存覚筆の伝えどおり室町時代初期頃と推定されています。他にも伝蓮如筆六字名号「南無阿弥陀仏」が伝存されています。



⑤ 光明寺



真言宗御室派仁和寺の末寺で、大同元年（806）空海（弘法大師）の開基と伝えられ、もとは八幡宮寺とも称し、八雲神社の宮寺でした。本尊の十一面観音立像は、守口市内に残る最古の仏像で、国の重要文化財に指定されています。右手を下げ、左手を上げて蓮華瓶を持つ、俗に言う長谷式の十一面観音立像で、材質は樟の一木造、総高は112.7cmあります。両手先や持物・宝冠・台座などは江戸時代の後補ですが、像の主体部はよく当初の面影をとどめ、藤原時代（10世紀）の彫像とし

真言宗御室派仁和寺の末寺で、大同元年（806）空海（弘法大師）の開基と伝えられ、もとは八幡宮寺とも称し、八雲神社の宮寺でした。

て守口市を代表する文化財です。また、裏の墓地には、市内でもっとも古い康永3年（1344）と刻まれた石塔婆があります。

⑥ 八雲神社・祭礼山車

旧の八番村・北十番村・下島村・南十番村の下番四ヶ村の氏神です。本殿は三間社流れ造で、向拝の中央柱間には虹梁を通さないという、北河内で珍しい形式を持ったものです。しかし、江戸時代中期には一間社流れ造の二殿形式であったものを、天保年間（1830～1844）に現在の三間社形式に再建したものと推定されています。また八雲神社の秋祭りは、旧の八番村・北十番村・下島村・南十番・下島の村から1台ずつと新たに八雲中町から1台計5台の山車が村中を練り込みながら争って宮入する様子は壮絶であり、貴重な民俗文化財です。



⑦ 尊教寺



もとは泉教寺と称し、鳴名善祐坊の開基で、宝永元年（1704）に、今の尊教寺という寺号に改められました。この寺に伝わる蓮如上人画像は、黒衣の御影と考えられ、絹地に両手で数珠を持った座像が描かれています。絹地は、やや粗目の室町時代後期によく使われた、いわゆる足利絹を用い、のびやかな描線でもって温顔のなかにも厳しさを秘めた蓮如上人の像をいきいきと描いており、蓮如上人画像としては比較的早い時期の作品として、貴重な資料です。

⑧ 御立野碑

明治43年（1910）10月に、淀川において陸軍の工兵隊による架橋演習が行われ、当時皇太子であった嘉仁親王（後の大正天皇）が視察したことを記念して建てられたのが御立野碑です。

⑨ 五箇樋跡

かつて、淀川から飲料水を引いた樋のあった場所です。五箇とは、守口庄（守口・土居）、小高瀬庄（大枝・馬場・世木・大阪市鶴見区の諸口・横堤など）寺方庄（南寺方・北寺方）、橋波庄（東橋波・西橋波）、稗嶋庄（門真市域）の五箇庄を言い、この地域に水を供給していました。

N

